

広がるフェアトレード

取り組みを進めている方にインタビューしました！

フェアトレードタウンさっぽろ戦略会議

2017年に設立された、フェアトレードを推進する市民団体。大学、企業、行政、市民団体の関係者らで構成されています。



フェアトレードタウン
さっぽろ戦略会議
会長の菅野さん

市内ではどのように取り組みが広がってきたのでしょうか

札幌にフェアトレード産品を扱う常設店ができたのが1991年。少しずつ取り組みが広がり、私たちは2008年から街全体でフェアトレードに取り組む「フェアトレードタウン」となることを目指して活動を続け、昨年認定を受けることができました。今後もフェアトレード産品の販売などを行うイベントなどを通じて、取り組みの意義を伝えていきたいですね。



▲毎年6月下旬に大通公園で開催されているイベント「フェアトレードフェスタ」

市民の皆さんにどのようなことを心掛けてほしいですか

物を買うときに、どういった人たちが作ったものなのか意識してもらえると、生産者の生活や環境問題を考えることにもつながります。最近ではスーパーなどでも取り扱われているので、マーク(8ページ下参照)が付いた産品を手にとってみてほしいですね。

札幌市は「フェアトレードタウン」に認定されました

市民や企業、学校など街全体でフェアトレードを推進する都市として、札幌市は昨年6月、フェアトレードタウンさっぽろ戦略会議の申請により、国内で5番目のフェアトレードタウンに認定されました。市内にはフェアトレード産品を取り扱うお店が約250店舗あります。また、フェアトレードを推進する大学として、昨年10月に北星学園大学と札幌学院大学が国内で2番目の「フェアトレード大学」として同時に認定されました。

市立札幌大通 高校遊語部

9カ国約30人の生徒が在籍する部活動。母国や交流がある国の文化紹介と国際協力につながる活動を行っています。



左から遊語部の松村さん、田口さん、東山さん

遊語部ではどんな活動をしていますか

フェアトレード産品を販売し、売り上げの一部を学校に行けない世界の子どものために寄付しています。また、高校で採取しているハチミツとフェアトレード産品のカカオを使ったチョコレートを開発したり、蜂の巣から採れる蜜ろうを布に染み込ませ、洗って繰り返し使えるようにしたエコラップを考案したりしてきました。



▲イベントでフェアトレード産品の販売を手伝う遊語部員

今後はどんなことに取り組みたいですか

部員みんなで作った、ゲーム感覚でフェアトレードについて学べる教材を広めたいですね。将来的には、例えばフェアトレード産品を扱うカフェを開くなど、活動の幅を広げていけたらいいなと思っています。これからも開発途上国の手助けになるよう、エコラップを市内の雑貨店にも置いてもらうなどして、フェアトレード産品の魅力を広めたいですね。

市役所の売店で フェアトレード産品を販売中

市役所地下1階の売店で、チョコレートやコーヒーなどのフェアトレード産品を、3月末(予定)まで試験的に販売しています。

市で作成したパンフレットを2月中旬から配布

フェアトレードの仕組みや商品などを分かりやすく紹介したパンフレットを配布します。市内のフェアトレード産品取扱店もこちらでチェック！
配布場所市役所10階交流課ほか
ホームページからもダウンロードできます

札幌 フェアトレードタウン 検索



解説

フェアトレード

について知ろう

開発途上国の貧困の解消や生活環境の改善につながる取り組み「フェアトレード(公平・公正な貿易)」。

このページでは、その仕組みや市内での取り組みを紹介します。

詳細 市の取り組みに関しては交流課☎211-2032

フェアトレードとは

開発途上国の農産物や手工芸品などを適正な価格で取り引きすることで、生産者や労働者の経済的・社会的な自立を支援する取り組みです。

フェアトレードの推進は、『持続可能な開発目標(SDGs)』(本誌4ページ参照)の実現にもつながります。取り組みを通じて、国際協力や国際社会の問題を考える機会になるため、市では市民や企業・団体と連携しながら普及啓発を進めています。

フェアトレードの仕組み

安い価格に苦しむ生産者



開発途上国の生産者の多くは、農産物などの産品を、仲買人が決めた値段で売らざるを得ない状況にあります。また、劣悪な労働環境や、小さな子どもが働かされていることも問題となっています。

フェアトレードで適正価格に



フェアトレード認証機関などが仲介し、適正な価格の保証に加え、地域に学校や病院、井戸などを作るための費用を含めた金額で販売。児童労働の禁止といった労働環境の改善や、生産技術向上のサポートも行います。

生活水準と産品の質が向上



適正な価格での取り引きが続くことで、生産者や労働者の生活が安定。労働環境や生活基盤の整備などが進むことにより、産品の品質の向上にもつながります。

フェアトレード産品の例

コーヒー、紅茶、チョコレート(カカオ)、ジャムなどの食品のほか、綿花、化粧品などさまざまなものがフェアトレード産品として認証され、販売されています。認証機関の一つ、国際フェアトレードラベル機構に認証された商品には目印となるマークが印刷されています。

